

日本豆類協会創立60周年と 「60年のあゆみ」の発刊について

(公財)日本豆類協会



日本豆類協会の前身である財団法人日本豆類基金協会は、農林大臣の認可を受けて昭和40年3月10日に設立され、その後、公益法人制度改革に伴い、平成25年4月1日より現在の公益財団法人日本豆類協会に移行し、令和7年3月には基金協会設立から数えて、人でいえば還暦に当たる創立60周年の節目を迎えました。

そこで、令和6年度の協会事業として、これまでの協会の足跡を記録として後世に残すために、60年誌を編纂し刊行することとなり、約1年をかけて協会役職員が主体となって企画立案から編集作業までを行いました。

その内容は、平成7年3月に発刊の「30年のあゆみ」に記載された以降の30年間を中心に、豆類や協会を取り巻く状況変化とそれらへの対応内容、また協会が助成してきた主な研究の成果や協会独自の事業内容などを取り上げた本編と、豆類に関する統計資料や協会の略年表、協会が助成を含めて行ってきた事業の年度別実施状況などをまとめた資料編とで構成されています。

なかでも助成研究成果の一部については、(地独)北海道総合研究機構の各農業試験場の研究者の方々から原稿執筆で御協力をいただきました。

これら本編及び資料編を合わせた総ページ数は110ページを超えるものとなり、表題を「60年のあゆみ」として、創立60年目当日の令和7年3月10日に発刊して関係各所に配付しました。